

## 回遊性向上のための外国語に対応したまち歩きガイドの育成などを行っている取組 (鹿児島県奄美市)

### 【支援措置】

中心市街地活性化ソフト事業 総務省〔事業経費の1/2を特別交付税により措置〕

### 【事業費】(H30実績)

1,250千円 (参考)事業費総額2,500千円

※県の補助金を活用したため、中心市街地活性化ソフト事業の特別交付税措置はなし

従来の自然散策・自然体験中心の観光から中心市街地へ誘客するツールとして、歴史・文化・産業等を散策・体験出来るまち歩きマップを作成する。大島紬・黒糖焼酎醸造所といったメニューを組み合わせるなど、観光客を呼び込むとともに地域住民との交流創出を図る。

事業の主体は(一社)あまみ大島観光物産連盟である。計画始期前のH28に県の補助金を活用して、歴史・文化・産業等を散策・体験できるまち歩きマップを作成し、これまでに観光案内所及び大型客船による来島者へ約1,000冊を配布した。今後は随時、増刷や改訂を行い、市が費用を全額助成する予定である。

H29からは、クルーズ船寄港時に中心市街地を散策する多くの外国人観光客の観光満足度向上を目的として、奄美群島地域通訳案内士と連携し、外国語に対応したまち歩きガイドの育成を行っている。既に着地型旅行商品として造成・販売している中心市街地をフィールドとしたまち歩きコースを基礎に各言語圏の文化、宗教観、興味に合った内容になるようフィールドワークやワークショップを行い、新しいテーマ、ガイド内容の構築を目指している。

なお、中心市街地活性化ソフト事業の対象事業として位置付けているが、H29、30は県の補助金を活用でき、市負担が抑えられていることから支援措置対象経費としては計上していない。

講義は全4回実施し、合計で英語7名、中国語7名が参加した。奄美群島地域通訳案内士間の交流の場としても効果があり、今後の活発な活動の横展開にも期待される。

事業内で精査したコースの内、英語版のまち歩きツアーを「あまみシマ博覧会(通年)」に掲載するなど受入体制が向上した。

あまみシマ博覧会:奄美大島の魅力を五感で楽しむために多種多様な着地型旅行商品を提供する取組み

奄美地区の外国人宿泊者数は、H25:1,116人、H26:1,093人、H27:1,886人、H28:5,357人、H29:4,993人、H30:5,226人と増加しており、需要の取り込みと満足度の向上が期待される。

### 【計画書の事業名】 中心市街地まち歩き事業(県事業:シマの魅力発掘・発信事業)



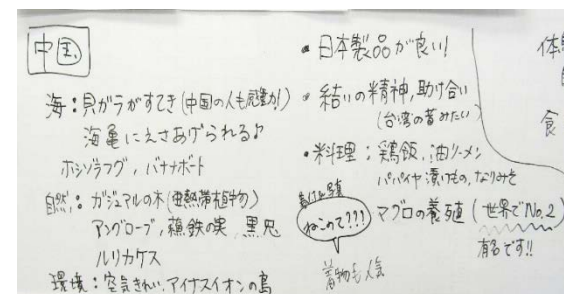
〈ワークショップ(英語圏)〉



〈ワークショップ(中国語圏)〉



〈フィールドワーク〉



〈フィードバック(ガイド内容の検討)〉